

「第10回松原市これからの地域医療のあり方検討委員会」 議事録

開催日時：平成25年9月3日（火） 午後2時30分～

場 所：市役所 3階 302会議室

出席者：

（委員会委員）田中英徳【委員長】、西本桂三、前川基継、高鳥毛敏雄、石田易司、竹井文子、柴田敏之

澤井市長

（事務局）岡田健康部長、大本健康部次長、向井副理事、青山参事、吉田課長補佐、浅田主幹

○（事務局）

本日は、委員の皆様方には、公私何かと御多忙なところ御出席賜りまして、ありがとうございます。ただいまより、第10回松原市これからの地域医療のあり方検討委員会を開会させていただきます。

なお、本日は澤井宏文市長も同席の上、開催させていただきます。

では、まず委員の皆様を御紹介させていただきます。

松原市医師会会長で、本検討委員会の委員長をさせていただいております田中英徳委員でございます。

松原市歯科医師会前会長で、本検討委員会の副委員長をさせていただいております西本桂三委員でございます。

関西大学社会安全学部教授、高鳥毛敏雄委員でございます。

大阪府藤井寺保健所所長、柴田敏之委員でございます。

松原市社会福祉協議会在宅福祉課課長、竹井文子委員でございます。

桃山学院大学社会学部教授、石田易司委員でございます。

松原市医師会理事、明治橋病院院長の前川基継委員でございます。

では、このたび、本検討委員会において地域医療および保健予防事業にかかわる幅広い議論をしていただいた内容を報告書にまとめられましたので、田中委員長より御報告させていただきます。

田中委員長、よろしく願いいたします。

○（委員長）

それでは、お手元に配付されております資料をごらんいただきたいと存じます。

まず、1ページのI、はじめに。ちょっと読ませていただきます。

「市立松原病院は、昭和22年5月に松原町国民健康保険直営診療所として設立され、その後昭和25年9月に当直営病院になりました。半世紀余り市民の医療サービスの中心的な存在となってきましたが、医療環境の変化や様々な要因により、平成21年10月末に廃院となりました。現澤井宏文市長は、市民の医療サービスの後退とまらないために、マニフェストで「市立松原病院の閉院に伴う地域医療の不安の解消をめざし、庁内にプロジェクトチームを設置するとともに、医師会等との連携を強化することで、小児医療をはじめ地域医療体制の一層の充実を図ります」を掲げ、地域医療の充実強化を重要な政策課題としていました。そこで、松原市医師会に協力をもとめ市長直轄の委員会として「松原市これからの地域医療のあり方検討委員会」を設けられ、平成21年11月から4年にわたり10回開催されました。本検討委員会に期待されたことは、市民の日常の健康支援から医療サービスにまでわたる総合的な健康医療環境の充実強化のための方向性を示すことであります。

本検討委員会の設置とあわせ松原市が中心となり地域医療体制の充実が進められてきました。医療環境につきましては、市立松原病院の病床100床を含め、救急医療、小児科医療など、市立松原病院が担ってきた基本的な医療機能は医療法人徳洲会松原徳洲会病院に引き継がれただけではなく、より充実したものに発展してきています。また、松原徳洲会病院以外にも市内の2つの医療機関が社会医療法人の認定を受け、医療機関の機能の充実を進めていただいています。また、「救急安心センターおおさか」に参画し、24時間市民の医療への安心の確保ができるようになりました。一方、市民の健康づくりや疾病予防、健康支援については、市立松原病院の医療職員を活かし、健康相談、予防接種、健診などの事業の充実に進めていただいています。

本報告書は、本検討委員会の開催により行政職員だけではなく、松原市医師会、松原市歯科医師会など地域医療に関わる委員、外部有識者から忌憚のない地域医療および健康事業に関わる幅広い議論をしていただいた内容を取りまとめたものであります。本検討委員会の議論が契機となり、松原市と市内の医療機関の連携を一層深めて、健康、医療の両面において市民の皆さんが安心して生活できる生活環境づくりにつながっていくものと期待しております。

最後になりますが、本報告書をまとめるにあたり、「松原市これからの地域医療のあり方検討委員会」の委員の皆さまのご協力に心から御礼申し上げます。

平成25年9月、松原市これからの地域医療のあり方検討委員会委員長、田中英徳。」。

ということで、「はじめに」という文章を書かせていただきました。

次に、2ページ以降にⅡとして、これからの地域医療のあり方委員会の開催内容について記載がございます。本日が第10回目でございます。平成21年11月2日第1回より開催いたしました内容の一覧と検討した議事録の要約をまとめております。

続きまして、20ページをごらんいただきたいと思います。

20ページにⅢといたしまして「地域医療及び保健予防事業の取り組みの現状と効果」ということについて記載させていただいております。松原徳洲会病院を初め、市内医療機関におい

ても医療機能がさらに充実し、また本検討委員会の中で提案されたことを市の施策として速やかに取り入れることで、健診や予防接種、教育、相談など、保健予防事業が以前にも増して充実してきたことをまとめております。

最後に、巻末の資料といたしまして、アンケート等の資料を真ん中の緑から後ろにまとめてございますので、御高覧いただければと思います。

それから、最後の最後に38ページの、今の巻末資料の前ですけども、「おわりに」という文章をつけさせていただいております。

IV、おわりに。「本検討委員会は、市立松原病院閉院に伴う松原市の医療水準の向上について検討を重ねてまいりました。

この委員会の中で提案されたことを松原市が施策に取り入れられたことで、健診や予防事業が以前にも増してさらに充実し、また、この間、松原徳洲会病院をはじめ、市内医療機関においても医療機能が充実されたことから、松原市における健康医療環境は向上し、市民の安心が確保できたものと思われま

す。今後も、澤井宏文市長のマニフェストにある「日本一・健康で安心安全なまち」の実現、また、健康イコール予防という観点から健康で長生き日本一を目指して様々な施策に取り組んでいただき、さらなる地域医療、予防事業の充実を願うものでございます。」。

以上が本検討委員会の内容をこの報告書にまとめさせていただきました。

○（事務局）

田中委員長、ありがとうございました。

では、報告書を市長に手渡していただきます。

○（澤井市長）

ありがとうございました。

○（事務局）

委員の皆様方、写真の撮影をしたいと思いますので、恐れ入りますが、前のほうへよろしくお願いいたします。

（写真撮影）

○（事務局）

ありがとうございました。

では、ここで澤井市長より御挨拶申し上げます。

○（澤井市長）

改めまして、皆さん、こんにちは。

松原市これからの地域医療のあり方検討委員会委員の皆様方には本当に丸4年間、委員の方々も何人かメンバーは変わり、あるいは新たに参画をしていただいた方々、多数おられますけれども、本当にこの市長直轄ということで、私は行政は何をおいてもやっぱりスピードが大切だと思っております。今までの行政の悪いところは、途中年度でいろんな提案をいただきま

すと、翌年度あるいは早くても2年後にそういった施策、事業を行ってまいりました。しかし、市民のためになって、私が第一にしております健康、安心・安全を守る提案をいただいて、そのことが市として可能ならば、行っていくことができるならば、補正を組んででも気づいたときにやっ払いこうというのが私の方針でございまして、この間、この委員会でいろいろと市民の健康、安心・安全につながる提案をいただきました。これを一つ一つスピードを持って、私自身も事業化、施策にしてきたつもりでございます。きょうはこの報告書をいただきまして、改めて、私もちょうど2期目に入りましたが、丸4年の1期4年間の取り組み等々もいろいろと頭に浮かび、非常に感慨深いといえますか、報告書を重く受けとめ、今日はいただいたわけでございます。改めてこの場をおかりいたしまして、委員の皆さん方に心から御礼申し上げる次第でございます。

ちょうどこの報告書にもありました、私が就任した年は、ちょうど病院を廃院した年でございます。そして、夏なのにインフルエンザが南は沖縄、北は北海道で流行いたしました。特に、この暑いさなかにインフルエンザが流行したということで、病院を閉めた市としましては、あのインフルエンザ、死者が出ましたから、非常に僕自身危機感を持ちました。

そういった中で、各医師会、歯科医師会をはじめ各病院機関、きょうは前川院長もお越しですが、各病院機関と連携をとらせていただいて、ここにもありました、まずは小児医療、救急医療ですね。夜間、土日、祝日、これは行政だけではできません。やっぱりそこで診療していただいている先生方の協力ですよね。松原市の医師会が一番3市の救急医療を担っていただいているんですね。負担していただいたんです。我々もそこをきっちり行政としてもバックアップしていこうということで、これも継続させていただきました。

これ、現状は奈良からも来ております。あるいは、南河内、大阪市からも患者さん来ていますけども、病院機関は基本的にこれを断るわけにはいきません。そういった意味では、これ最初、府の補助がついていたんです。きょうは所長お越しで大変恐縮なんですけども、これ2年前からカットされました。本来、こういう安心・安全につながる事業というのは、私は府や国がそこをバックアップしていくべきだと実は思っております。ただし、我々はこれ言いわけはしません。きっちりとこの3市で連携、信頼関係のもと、各先生方、病院機関と一緒にあって、これからもこれをきっちりその務めを果たしていきたいなと思っておりますけども、まずやっぱり一番にはこの委員会でいただきました予防、ここでも今後も力を入れていきたいなと、このように思っております。

予防でいいますと、各ワクチン事業ですね。この小児ヒブ、肺炎球菌、あるいはお年寄りの高齢者肺炎球菌ワクチンもそうですけども、これ府下でも本当に先進的にこの松原市は取り組みをさせていただきました。あるいは、健診事業も、これ僕はトップレベルだと思っております。この中でも昨年からは前立腺がんの検診も始めましたけども、いろいろとこういった取り組みもやはり我々基礎自治体が担うべきはここかなと、私はこのように思っております。

そういった中で、これからの市民のそういった予防、今ちょうど松原市は、これもほとんど

の方に御協力いただいておりますけども、セーフコミュニティ、これWHOが認証しておりますけども、この取り組みの1つ大きなところで言いますと、予防、事件・事故あるいはけがというものは防げるという、あらゆるデータをもとに検証して、防げるものは防いでいこう、事故、けがをなくしていこう、こういった取り組みもしておりますけども、これも1つ松原市の新しい取り組みでありまして、予防に重きを置いた、そして市民との協働で取り組んでいく大きな大きな事業でございます。その先進的なものが、この委員会でいただいた松原市のいろいろな事業に行き渡っているのかなど。私は改めてきょうのこの報告書、申しわけないです、事前にちょっと目を通させていただいて、各内容通させていただきました。実はこの会議、市長直轄と言いながら市長出ていないじゃないかと言われるかもしれませんが、毎会議後、議事録、誰よりも一番に読ませていただいております。私は市民の安心・安全に多くの方々がこの委員会からいただいた提言、あるいは意見等々によって、そういった不安の解消につながったんだと思います。医療の向上、復活という、この言葉をあえて使わせていただきました。私は、本来この言葉を使う必要はないと思っていました。ただし、それだけ市民の方々がいろいろと不安に思っておられることを松原市としてケアをしていくためには、やはりこの不安をまず払拭させたいということで、この間の取り組みも行ってきたつもりであります。これから、向上とか、そういう復活という言葉を使わずに、さらに市民の方々が健康に暮らしていただけるまちづくりを、まさに言葉だけではなく、日本一のそういった健康、安心・安全の町を目指して進めていきたいと思っております。

きょうでこの委員会は解散ということにはなりますけども、皆さん方からこれからもどうか御意見、御提案をいただきたいと思っております。その折には職員にも直接申していただきたいと思っております。今、職員は聞く耳を持っております。職員の耳に入ったことは必ず僕の耳にも入れてくれます。もしくは、先生方あるいは皆さん方、直接僕の耳にも入れてください。そして、松原市なりに財源の確保も含めた中で検討した中、松原市民のためになるものはこれからもスピードを持って私は取り組んでいきたいと思っております。どうかこの御縁を機に、今後とも松原市に対しまして御支援、御協力を賜りますよう、よろしくお願いを申し上げまして、松原市民を代表いたしまして、皆様方に御礼の言葉を申し上げます。ありがとうございました。

○（事務局）

ありがとうございました。

委員長、ほかに何かございませんでしょうか。

○（委員長）

そうですね、せっかくでございますので、何か皆さんから御意見があれば、そんなに時間もございませんけど、一言ずつでもこの委員会に対しての感想、今後の課題とかございましたら伺いたいと思っております。

○（委員）

そうですね、歯科医師会としましては、やはり市民の方の安心・安全、予防のためには口腔

ケアがもう一番だということで、現在、特にかかりつけの歯科医を持つということ、今、積極的に動いております。今回のこれにつきましても、検診事業、枠を拡大させていただきまして、特に日本歯科医師会が8020という運動をしております。80歳で20本残そうというのをやっているんですけど、枠を拡大させていただきまして、80歳の枠を入れていただきました。本当にありがとうございました。そして、また市民の方々にそういうかかりつけ医を持ってほしいということで、いろんな場所でいろんなことを発言するために、健康ステーションのほうでも我々の活動をさせていただきました。非常に今回これが役に立ったと思っております。よかったですと思います。ありがとうございます。今後ともまたよろしく願いいたします。

○（委員）

市長が述べられたように、自治体、特に基礎自治体の果たす、市民の健康だけじゃなくて、生活全般に及ぼすというか、責任が重要になってきて、その中でももうこういうセーフプロモーション、セーフコミュニティをつくるというのは非常に先駆的というか、意欲的試みで、あ、あいう、もう一つ、ヘルシー・シティという概念もありますが、やはり普通の単なる疾病だけじゃなくて、もともとの町の社会環境全体を、市民が快適に暮らせる環境をつくるのがこの21世紀型の健康医療の一番大きな課題かなと思って、それ積極的に進めていただくことを期待しています。

それともう一つ医療というのは、一番日本で課題になっているのは、プライマリーレベルの医療の充実、かかりつけ医であったり、困ったときに相談したり、その医療も狭い意味の医療だけじゃなくて、介護とかも含めた、そういうところが重点で、その点では松原市は、市のサイズから言っても、医療機関の配置から言っても、今回のこの検討会を通じて、医師会の先生、また歯科医師会の先生を含めて、結構仲間意識というか、行政と対立関係じゃなくて、一緒に発展させようというところは僕自身も何か期待するものが大きいんですが、もう一つは医療の中に高度医療とか、特に災害に関連した広域災害とか、それと二次医療圏、もっと大きい単位で整備していかないと安心できないという部分、そこは都道府県とか国の医療政策が問われるところなんで、市長のお立場から大阪府、藤井寺保健所長さんが来ていますが、やはり自治体で頑張るといって、その自治体を後方で支える都道府県、国に対しても何が問題かということ現場の立場から厳しい意見を出していただければなと思っております。

○（委員）

いろいろ御意見いただいております、大阪府としましては医療法に基づく医療計画を策定するという義務がございますので、それは当然大きな単位としては府内、府としての単位、それから2次医療圏としては、この南河内医療圏というふうな形で医療の推進を図っていくという義務がございます。その中でも松原市さんにおきましては、当委員会を初め、いろんなところで3医師会の先生方と、また病院の先生方と連携をとって医療のことについて議論し、事業を進めていっているということは非常にありがたいことだと思っております。

また、社会医療法人、きょうは院長先生おられますけども、市内に2カ所あると。非常にこ

れもありがたいことだと思っております。平成17、8年ごろだったと思いますけども、前の小泉政権のときに三位一体改革で、かなりの医療に関する財源や権限の移譲がありまして、そこからまたこの秋、もしくは来年ぐらいに国のほうで医療法の改正をしていこうという動きが見られたり、こちらのほうもこういった松原市さんのこの委員会とかでも意見をいただきながら、大阪府としても国に、知事会としてか、それとも衛生部長か、ちょっとわかりませんが、そういったところで地域の現状について発言をしていきたいと思っております。

○（委員）

介護の分野からですが、4年間参加させていただきましてありがとうございました。

実際、がん検診の受診率アップのための取り組みとして実際体験したことで、私事ではありますがけれども、とても丁寧な電話で勧誘を受けまして、初めて市の検診を受診したというふうなこともございました。また、健康ステーションでは包括の職員として参加をさせていただきまして、市民の方に対して医療だけではなく、介護も予防の必要性というのをかなり強く意識づけができたのではないかと考えております。市長が今進めておられます安全・安心のまちづくりに関しても、また私たちも微力ですが、介護予防という観点から、またぜひできることをやっていきたいと思っております。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○（委員）

本当に市民病院がなくなったことが市民にとってとても大きな不安だったと思いますけど、その結果、いい医療ネットワークができて、このことはとてもいいなと思います。

この報告書に書かれていないことでちょっと気になったことが、1つはやっぱり認知症の問題ですよ。やっぱり厚労省も地域のお医者さんがどうネットワーク組むかということがとても大事だとおっしゃっていますので、その辺と、それから高鳥毛さんもちょっとおっしゃっていましたけども、災害時の医療ですね。防災もそうですけども、一般的な防災だけじゃなしに、そのときの医療というのはとても大事だと思います。

もう一つが、ちょっと調査をさせていただいたときに、東側の北と南にあります公営住宅がちょっと異様に高齢化率も高いですし、ひとり暮らしが異様に多いんですよ。地域の人とはほとんど交わってられない方が多いという。つまり、よそから入ってこられた方がとても多いということだと思うんですけど、その辺ちょっと本気になって取り組まないと、とても大変だなということを思いましたので、いろんなネットワークを使って、その辺を頑張ってもらえればなというふうに思います。

○（委員）

私の考えとしましては、この報告書の初めと終わりに集約されていると思います。あと、つけ加えることとしたら、私事ですけども、ことしの1月から当院も社会医療法人の認可を受けて、より広域性の高い意識を持って関係医療機関と、それから医師会、行政の指導を受けて、この松原市の地域医療、それから市長肝いりの安全・安心のまちづくりに微力ながら貢献できたらなと思っています。今後ともよろしく願いします。

○（委員長）

最後に、医師会として、地域医療、やっぱり医師会が中心になるべきものでありますし、今、皆さんからの発言にもありましたけど、医師会としては極力市の行政の行おうとしていることに対して協力していきたいという姿勢でやってまいりました。

ただ、市民病院がなくなって、ちょうど市長さんおっしゃいましたけど、インフルがはやったときに、ちょうど年末、いや、11月ぐらいからもうどうしようもなくなって、日曜日の徳洲会病院の小児科をあけると、年末年始もあけるということで、医師会のほうに小児科医の出動の協力依頼というのがありました。大変でしたが、がんばらせてもらって、やっぱり大事だということは、最低限会員も若い人も理解してくれていますし、我々がそういう人たちをリードして貢献していかないといけないというふうに、思っております。

それと、防災の話ですけども、医師会も防災委員会を立ち上げまして、トランシーバーも買いましたし、阪南中央病院、それから徳洲会病院なんかで防災訓練等もやっております。市がやられている訓練とは別にしていたんですけども、去年から一緒に合同で医師会も参加させていただいています。何か起これば実際どうなんだというふうなことになると思うんですけども、少しづつ想定できる範囲で、努力してやっているとこでございまして。

今後とも医師会としましては、言うべきことははっきり言います。しかし、協力するところはする、そういうふうな考えを私は持っていますので、何とぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

○（事務局）

本委員会は本日をもって終了とさせていただきます。長い間ありがとうございました。